

再評価実施事業調書

番号	4	事業名	広域河川改修事業		路線又は箇所名等		(二) 栗山川水系 栗山川		
事業所管課		河川整備課			事業主体		千葉県		
事業化 年度	昭和 49年度	用地着手 年度	昭和 49年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	昭和49年度 平成38年度	再評価の 理由	再々評価		
費用便益比 B/C	1.1 (1.4)	総費用 (現在価値)	143億円 (42億円)	総便益 (現在価値)	154億円 (61億円)	基準年	平成 29年度	供用開始 年度	平成 38年度

※上段：全体事業費 下段（ ）：残事業費

【事業概要】

(目的)

栗山川流域では、近年市街化の発展及び河口 3.0k~8.0k 付近の未改修区間の影響で未改修区間沿川、本川上流域及び支川流域で浸水被害が多発し、治水安全度が低下している。

上流の開発に伴う流出増に対応するため、狭窄区間の河道整備とその付帯工事を行い、周辺開発と整合を図った良好な社会基盤の整備に資するため河川整備を行う。

(主な実施内容)

事業計画区間長 17,206m

(築堤 17,206m 掘削 8,347,000m³ 橋梁 13橋 樋管 53基 排水機場 22箇所 堰 1基)

【事業の進捗状況】(H29年度末見込み)

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	147.7	98.7	49.0	66.8

【社会経済情勢等】

① 流域状況

栗山川は、指定区間延長 33.7km、流域面積 284.5km² の二級河川である。栗山川は、房総導水路および両総用水を兼用しており、利根川から取水された水は栗山川を通じて流域を含む九十九里地域や房総地域へ農業、都市用水として供給、送水されている。

流域の低地部には水田が広がり、市街地は JR 総武本線沿線に広がっている。現在、市街化の進展や圏央道建設に伴う開発促進によって流出量の増大が懸念されており、これらに対応するため河道改修が鋭意進められている。

近年、河道改修の効果により洪水時の浸水被害が減少傾向にあるものの、水田や低い土地にある家屋及び幹線道路の浸水等の被害が発生しており、さらに流下能力が不足している区間の治水安全度の向上が望まれている。

② 主な水害状況

- ・平成 11 年 10 月(大雨) 浸水戸数 172 戸 浸水面積 1,950ha
- ・平成 16 年 10 月(台風 22 号) 浸水戸数 28 戸 浸水面積 209ha
- ・平成 25 年 10 月(台風 26 号) 浸水戸数 35 戸 浸水面積 60ha

[裸書:全体事業、():残事業]

③ 投資効果

- ・浸水戸数 303 戸(178 戸) ・浸水面積 1760ha (1116ha)

④ その他

- (関連事業)・住宅市街地基盤整備事業
- ・鉄道橋緊急対策事業

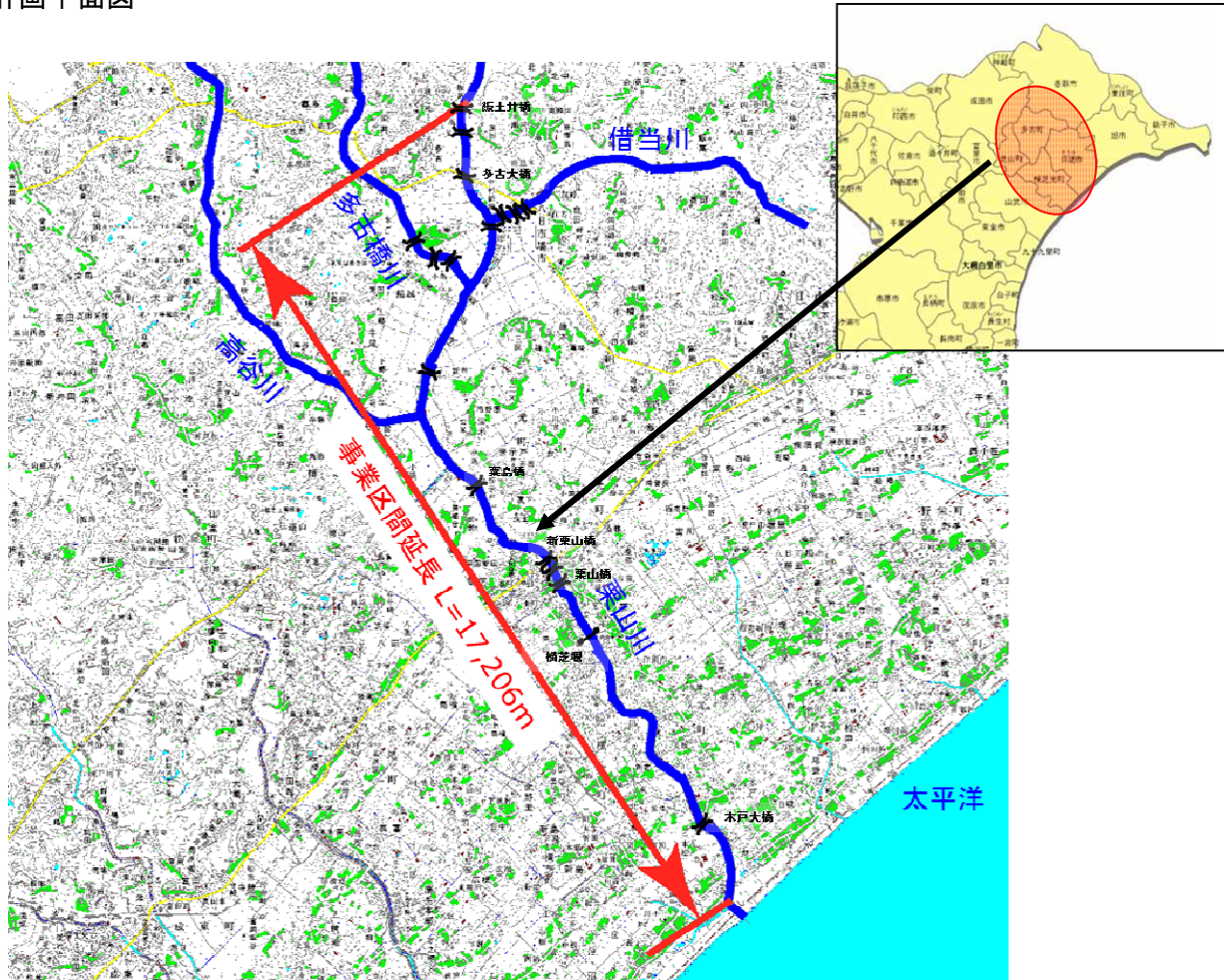
【対応方針(案)】

栗山川流域では、圏央道の延伸等による流域の開発等により流出増が見込まれ、さらに本治水事業への地元からの要望が大きく、また、全体事業の費用便益(B/C)は1.1(残事業1.4)となり、事業の投資効果も見込まれることから、事業を「継続」し、計画的な事業の推進を図る。

事業概要図

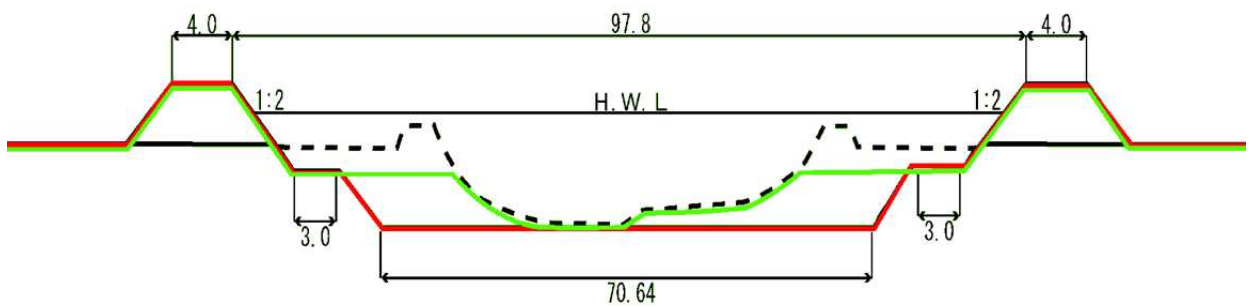
番号	4	事業名	広域河川改修事業	路線又は箇所名等	(二) 栗山川水系 栗山川
----	---	-----	----------	----------	------------------

計画平面図



標準横断面図

●新栗山橋 (国道 126 号上流) 付近



再々評価事業に関する調書

番号	4	事業名	広域河川改修事業	路線又は 箇所名等	(二) 栗山川水系 栗山川	
事業化年度	昭和 49 年	用地着手年度	昭和 49 年	工事着手年度	昭和 49 年	
【再評価 (H24 年度) の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成 24 年度	供用開始年度	平成 38 年度	対応方針	継続	
B/C	2.8 [1.6]	総費用	46 億円 [110.1 億円]	総便益	129.6 億円 [175.8 億円]	
(裸書 : 残事業、[] : 全体事業)						
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 ○継続することが妥当である。						
再評価時の進捗状況及び再評価時想定 of 5 年後の進捗状況						
		計 画	進捗状況 (H24)	想定 of 進捗状況 (H29)		
事業費		147.8 億円	95.0 億円 (64.3%)	113.8 億円 (77.0%)		
うち用地・補償費		42.4 億円	40.0 億円 (94.4%)	40.9 億円 (96.4%)		
うち工事費		105.4 億円	54.9 億円 (52.1%)	72.9 億円 (69.2%)		
【再々評価 (H29 年度) の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成 29 年度	供用開始年度	平成 38 年度	対応方針	継続	
B/C	1.4 [1.1]	総費用	42 億円 [143 億円]	総便益	61 億円 [154 億円]	
(裸書 : 残事業、[] : 全体事業)						
現在の進捗状況						
		計 画	進捗状況 (H29)			
事業費		147.7 億円	98.7 億円 (66.8%)			
うち用地・補償費		42.5 億円	40.0 億円 (94.2%)			
うち工事費等		105.2 億円	58.7 億円 (55.7%)			
再評価後の 経過 及び 処理状況	平成 25 年 3 月 第 6 回栗山川流域懇談会 事業再評価「継続」					